

Ⅲ 総括

1. 全体考察

■ 回答者について

回答者は高齢者の割合が高く、60歳以上の割合が約5割を占めており、この傾向が全体の回答結果にも影響しているものと考えられます。また、約7割の人が、加古川市での居住年数が20年以上となっています。

職業については、「会社員、公務員」が約3割、「無職」が約2割となっています。通勤・通学をしている人のうち、通学・通勤先は、約半分が市内、残り半分が市外となっています。また、通勤・通学をしている人の半数以上は、「自動車」を利用しています。

■ 定住意向について

6割以上の人が、加古川市での定住意向があると回答しています。女性よりも男性の方が、若年層よりも高齢者層の方が、定住意向が強い傾向がみられます。地区別にみると、加古川西地区において、最も強い定住意向がみられます。

定住意向がない人のうち、転居したい理由としては、買い物や医療機関へのアクセスが不便であることや、景観・まちなみに魅力がないことなどが挙げられています。性年代別にみると傾向は異なり、40歳代男女では通勤・通学の利便性、30歳代女性では子育て環境の充実を求める声理由として挙げられています。地区別でも傾向は異なり、加古川北地区では福祉サービスの充実を求める声が多く挙げられています。

また、市外への転居を希望する人のうち、転居先としては、神戸市を希望する人が約3割、明石市を希望する人が1割半ばとなっています。30歳代女性では、明石市を希望する人が約4割となっています。

■ 満足度・重要度について

満足度では、「水道水の供給」や「下水道の整備」、「消防や救急・救命体制」などへの評価が高いものの、「バスの便利さ」や「ポイ捨てやペットのふん害防止」、「地域内の道路の安全性や便利さ」などへの評価が低くなっています。

重要度では「安心できる医療体制」や「介護保険など社会保障制度の適正な運営」などが上位となっています。

重要度が高い一方で満足度が低くなっている項目は「バスの便利さ」や「ポイ捨てやペットのふん害防止」、「地域内の道路の安全性や便利さ」、「介護保険など社会保障制度の適正な運営」、「加古川駅周辺の都心としての魅力」などとなっています。

■ 防災対策・防犯対策について

防災対策として何の取組も行っていない人は約4割、防犯対策として何の取組も行っていない人は約3割となっています。防災対策よりも防犯対策について、家庭での取り組みをしているという割合が高くなっています。

■ 家族等の介護状況について

現在、家族等の介護を行っている人は1割半ばとなっています。男性よりも女性の方がその割合は高く、年齢別にみると、50歳代が最も高くなっています。地区別にみると、加古川北地区、両荘地区、志方地区で、その割合が高くなっています。

介護の対象者が自身もしくは配偶者の親であると回答した人は6割半ばとなっています。地区別にみると傾向が異なり、加古川西地区では「配偶者」、浜の宮地区では「祖父母」、両荘地区では「兄弟・姉妹」がそれぞれ他の地区よりも高くなっています。

また、介護をする上で困っていることとして、身体的・精神的負担を挙げる人が多く、男性よりも女性の方が、その負担を感じている傾向がみられます。加古川北地区では、特に困っていないという回答が他の地区と比べて高くなっています。

■ 市政に関する情報や「広報かこがわ」「加古川市のホームページ」について

約9割の人が、市政に関する情報については「広報かこがわ」から入手していると回答しています。町内会の回覧からという回答も多く、男性で5割、女性で6割となっています。

広報かこがわについて、約8割の人が『満足』（「満足している」「やや満足している」の合計）と回答している一方で、30歳代以下男性、20歳代以下女性では、読んだことがない人が1割以上となっています。

市のホームページについては、「見たことがない」という人が4割半ばと最も多くなっています。加古川北地区では見たことがないという人が5割を超えており、他の地区と比べて最も高くなっています。

■ 「棋士のまち 加古川」について

「棋士のまち 加古川」について知っている人は6割半ばとなっています。性年代別にみると60歳以上男性で比較的高くなっており、7割以上が知っているという回答をしています。地区別にみると、加古川地区、加古川西地区で、知っているという回答した人が7割台となっています。

「棋士のまち 加古川」に関する取組の認知度については、女性よりも男性の方が、若年層よりも高齢者層の方が、高い傾向がみられます。

■ 市民活動の参加状況・参加意向

市民活動に参加をしている人は、2割弱となっています。女性よりも男性の方が、若年層よりも高齢者層の方が、参加している人が多い傾向がみられます。地区別にみると、加古川北地区、両荘地区、志方地区では比較的高く、2割台となっています。

今後の参加意向がある人（「ぜひ、参加したい」「機会があれば参加したい」の合計）は6割弱となっており、参加していない人の中にも、参加意向のある人がいることがわかります。男性よりも女性の方が参加意向のある人が多いなかで、70歳以上女性は4割と他の年代よりも低くなっています。

■ 市や居住地域に対する誇りや愛着の程度

市や居住地域に対する誇りや愛着を感じている人（「強く感じている」「感じている」の合計）は約6割となっています。30歳代男性では、5割台の人が誇りや愛着を感じていない（「あまり感じていない」「感じていない」の合計）と答えており、他の性年代と比較して高くなっています。

■ 加古川産を意識した農畜産物の購入状況

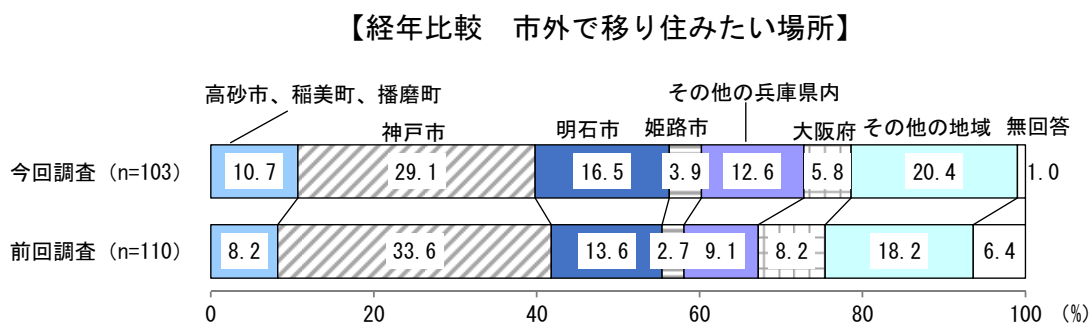
農畜産物を購入する際に加古川市産を意識していない（「あまり意識していない」「全く意識していない」の合計）と答えた人は約6割となっています。男性よりも女性の方が、若年層よりも高齢者層の方が、加古川市産を意識して購入している人が多い傾向がみられます。地区別にみると、加古川北地区、志方地区においては、意識していないという人よりも、意識していると回答した人の方が多くなっています。

2. 経年比較

アンケート結果の分析において、前回調査の結果との差異がみられた項目について、考察をまとめます。

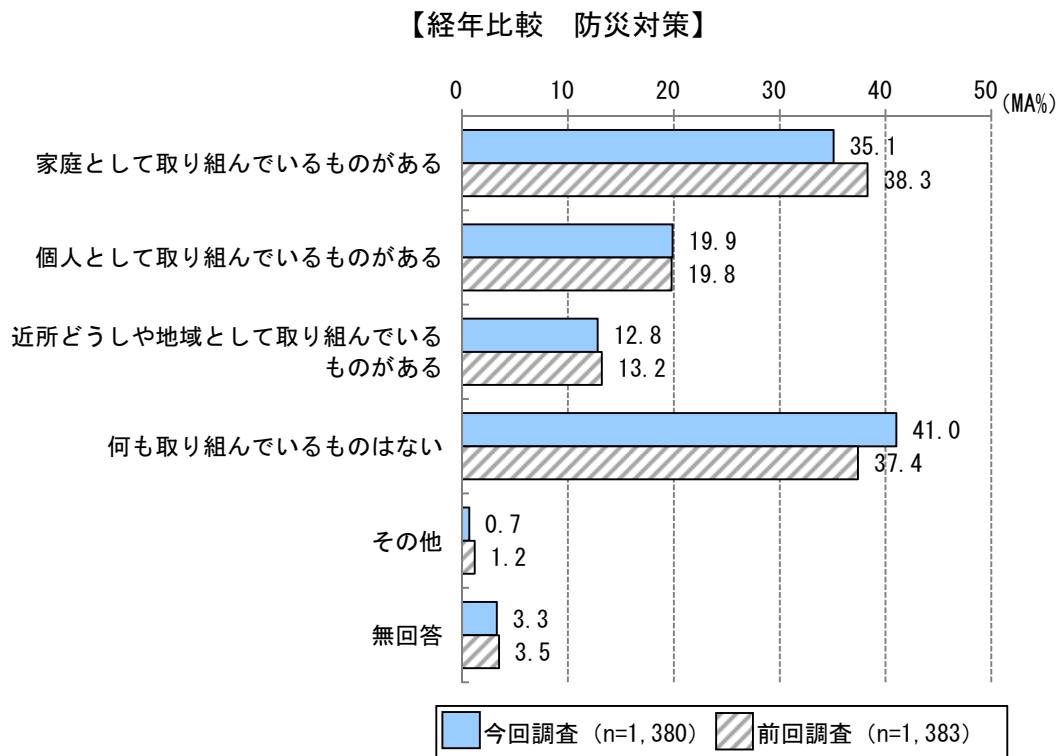
■ 市外で移り住みたい場所について

前回調査と比較して、「明石市」や「その他の兵庫県内」と回答する人が増加しています。



■ 防災対策について

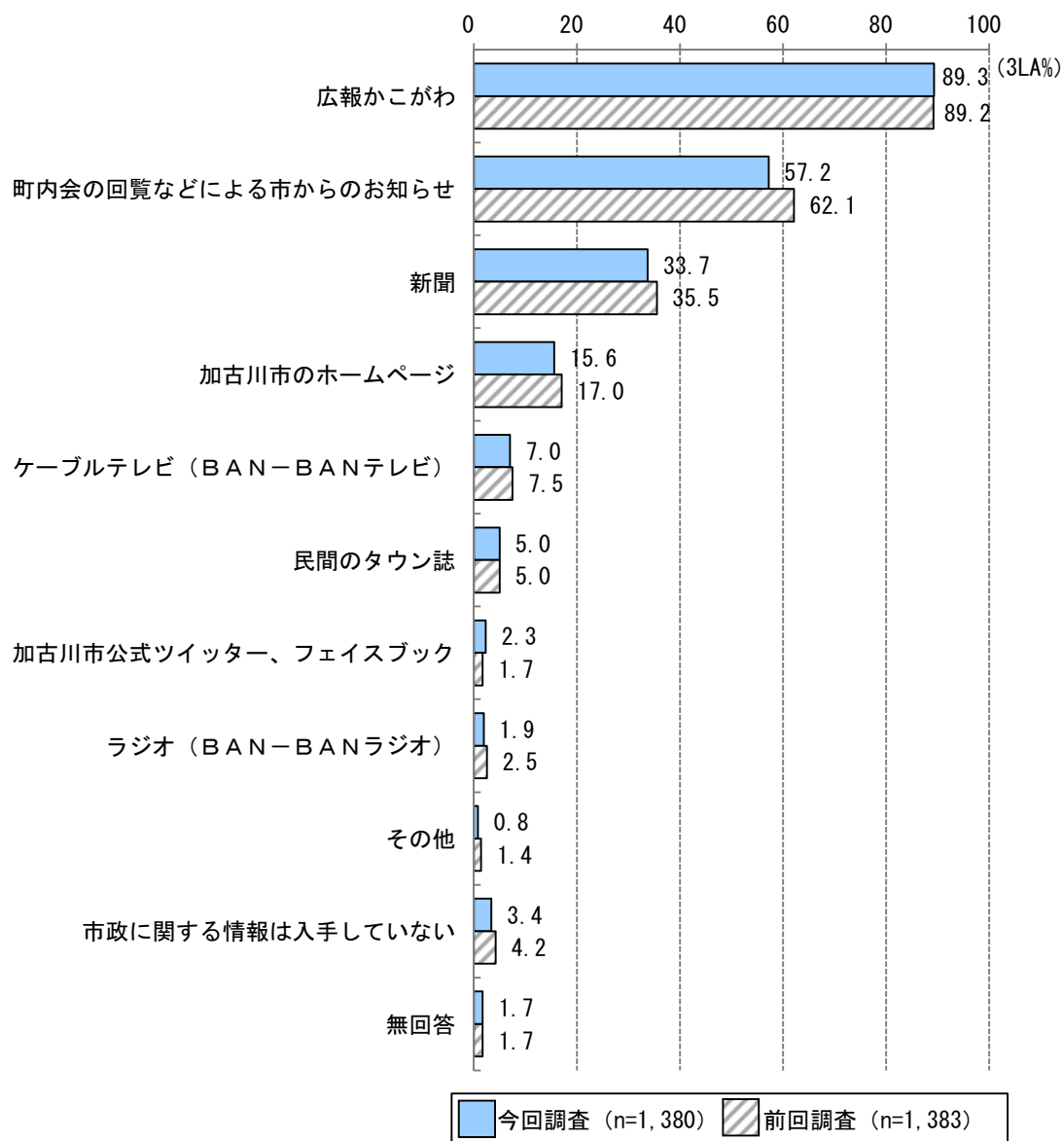
前回調査と比較して、「何も取り組んでいるものはない」と回答する人が増加しています。



■ 市政に関する情報の入手先について

前回調査と比較して、「町内会の回覧などによる市からのお知らせ」と回答する人が減少しています。

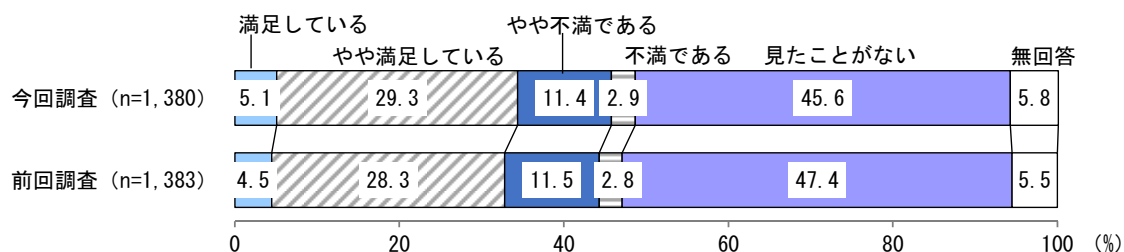
【経年比較 市政に関する情報の入手先】



■ 加古川市のホームページの満足度について

前回調査と比較して、「見たことがない」と回答する人が減少し、「満足している」「やや満足している」と回答する人が増加しています。

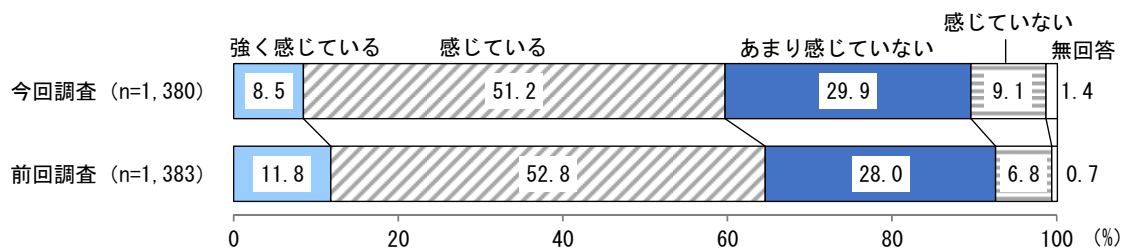
【経年比較 加古川市のホームページの満足度】



■ 郷土愛の意識について

前回調査と比較して、「あまり感じていない」「感じていない」と回答する人が増加しています。

【経年比較 郷土愛の意識】



■ 地産地消の意識について

前回調査と比較して、「あまり意識していない」「全く意識していない」と回答する人が増加しています。

【経年比較 地産地消の意識】

